



後陶然無憂





Handwritten text in cursive (sōsho) style, written vertically in black ink. The text is arranged in several columns, starting from the right side of the page and moving towards the left. The characters are fluid and connected, typical of personal correspondence or a diary entry.

古屋敷

太田

太田喜雄

利

喜

淨念寺

孝仁馬

あまのついでに降る雲
遠き鳥のさうあつた
すうすうと風が吹く
はらばらと花が散る
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた

歌仙

若きうきよとてなほまもあ

持谷

和のうらさかありの物

水屋

二三軒来り酒をりゆりて

来月

能のついでなる歌

猪

うらさか夏風降る月

木

おもむき風をうらさか

来

所紀元もつゝも徒ら炭汁

幕下つゝもいふ中も

尚書を歌やよむ能の音

是れもねまほ方志に

花言はふ公家やん 鹿枕

尋まやれに海人の留當古

みらよの阿まゝぬきぬき

舟の日の産の鳥帽をぬきぬ

唐ねも出れを唐あゝの月

大公望のやゝねを方物

齋館の飛く言入塙の阿方

襦もももこゝ袋井の所

禪宗の神もぬきぬき

花ねも阿の提もぬきぬ

陳小僧余つゝも茶師のぬきぬ

ぬきぬも男屋のぬきぬ

猪

木

来

猪

木

来

猪

木

来

猪

木

来

猪

木

来

猪

馬石の結成と結成詩念也

心もあつたよめあつたよめ

あつたよめあつたよめ

あつたよめあつたよめ

あつたよめあつたよめ

あつたよめあつたよめ

あつたよめあつたよめ

あつたよめあつたよめ

木

栲

来

木

栲

来

木

栲

是におおむ川原の原

あつたよめあつたよめ

あつたよめあつたよめ

あつたよめあつたよめ

あつたよめあつたよめ

あつたよめあつたよめ

栲

木

来

栲

木

来

こゝに

知事よりや製しつるに城構
とてそのこゝに西くはる

木 末

はハ

石居や雲の浦れおの中

猫

おく

空をよ木のこゝまよあけも影

木

真まよふらうと見あはるるり

末

すなはちこのはあぬる

瑞無ありのたし縁構

矢張りあつてあつて

もよらのゆらゆら

山のたしつらあつて

あつてあつてあつて

あつてあつてあつて

あつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつて

猫

ひ

ら

猪

め

ろ

木

水

猪

ん

さ

木

い

さ

さ

猪

さ

木

雪

木

元文四未之

大尾

水聖魚

阿と空とくしこのあひまのあひま

環堵

獨谷子

寄藤のほがしやあまの河之の世

諾自

來月号

けつりのあから拂ふ大詔

閨如

改

太田喜雄 喜

花も全

喜雄

聖白山持取院當房云來之

池田所

淨念寺

孝仁馬